

1. 評価結果概要表

平成 19年 10月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2073300283		
法人名	特定非営利活動法人さわやか千歳		
事業所名	グループホームさわやか千歳		
所在地	長野県下高井郡山ノ内町夜間瀬2506番地の1 (電話) 0269-33-1648		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(19年 8月 20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤9人	非常勤4人 常勤換算7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階 造り		
	2 階建ての 1～2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円
敷 金	有(100000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要 (8月 20日 現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	1名	要介護2	
要介護3	4名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 83 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北信病院・北志賀高原診療所・上田歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然に恵まれた静かな山間地に位置し、地域づくり、町づくりに活動されているNP O法人が豊かな自然と人間の共生を想い創設され入居者が地域の方々と共に暮らし続けるための基盤づくりに努められている。ホーム前には小学校があり行事等に参加され交流を持たれている。医療面でも協力医により週1回の往診が行われると共に、施設長が看護師の資格を持ち合わせ、長年の経験を活かされ入居者の日々の安全と安定が図られている。また施設長は職員の良きスーパーバイザーとして入居者のために課題解決にあたる等前向きな取り組みに努められている。なおターミナル時の看取りの対応指針を定め、職員と方針を共有され終末期の看取りも行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今後さらに理念の見直しを行い、地域生活の継続支援と地域の関係性をもちこまれると共に日常生活ケアに即した理念の構築に期待します。地域の方へホーム行事の参加を呼びかけたり、また地域の行事に招待を頂き交流を図られたりされてホームへの理解も得られるようになり、地域に開かれたホームに成りつつあります。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者はサービス評価を実施するにあたり、評価に積極的に取り組まれると共に評価の意義や目的を全職員に伝え意識改革に努められている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域密着型に移行されてからは地域との接点も多くなり、また市町村との連携も取れ運営推進会議も3～4ヶ月に1回の頻度で開催されている。ホームからの現況報告と共に検討事項や懸案事項等を報告されている。なお参加者より質問、意見等を受け話し合いが持たれている。また評価材料を提示して、具体的な成果の評価もいただいている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居時の説明と共にご家族訪問時(毎月の利用料納付に来所・家族会開催・運営推進会議等)にご家族の意見や苦情等の表出に努められている。ホーム玄関には「声の箱」が設置されており、気軽に投函できる配慮もされている。利用料請求書発送時に入居者の現況をお知らせすると共にホーム便り「ちとせ」を発行して送付され、ご家族の不安解消への取り組みも行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームでの誕生日会や食事会に地域の方々に呼びかけ参加をいただいたり、地域の方のボランティアの受け入れもされている。隣接小学校との交流会を持たれたり、地域にある温泉利用等により交流を深められている。また近隣の方より野菜や果物の差し入れ等もありホームへの理解と信頼関係が構築されつつあります。近隣の方が気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに配慮がされている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできる旨をもちこまれた理念がホーム玄関に掲げられ、入居者、ご家族、訪問者が閲覧できるよう表示されている。	○	今後更に全職員で地域密着型サービスの意義を確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性をもりこんだ理念の構築が望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で理念について話し合い、具体的なケアについての意見統一が不十分である。	○	理念の意味を理解し職員間で話し合い、サービス提供場面において理念が反映できるような取り組みに期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域より行事参加等の招待(小学校、保育園の運動会等)があり、入居者と一緒に参加されている。また地域の温泉よりの声かけもあり、利用もされている。なお地域の清掃にもできる限り参加し交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価を実施するにあたり、評価に積極的に取り組まれていると共に評価の意義や目的を全職員に伝え意識改革に努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3～4ヶ月に1回開催されており、開催内容について意見を聞くと共に現況説明をし、検討事項や懸案事項の経過を報告されている。なお評価材料を提示して、具体的な成果の評価等もいただいている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスの創設を機に市町村との連携強化が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料請求時に入居者の現況をお知らせすると共に、毎月利用料をホームへ支払いに来られた折、領収書をお渡しして、金銭出納帳に確認印をいただいている。ホームだより「ちとせ」を3～4ヶ月に1回発行し送付されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に「声の箱」を設置されたり、ご家族の訪問時や家族会開催時に意見や苦情等の表出に努められている。しかしこれまでにご家族の意見や苦情、不満はでていない。	○	今後も職員や事業所側から意見を積極的に聞かれる努力を継続的に行うと共に、家族会開催の折にホーム側からテーマを決めてアンケート方式による意見の表出等の場面作り（ご家族と共に創る施設づくりのために）を望みます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって馴染みの職員が対応することが重要と認識されており、職員の離職によるやむを得ない場合には新人職員に馴染みの職員が付き添われる等の配慮をし入居者、ご家族の不安や負担を最小限にするよう努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の質の確保や向上に向けた育成の必要性を認識されており、月1名は内外の研修に仕事の一環として参加できる機会を設けられている。なお研修後参加者により研修報告が行われ全職員に周知がはかられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会し、定期的な研修セミナーに参加すると共に県北信域の交流会に参加されている。なお月1回、他のグループホームや宅老所等を訪問し職員と共に交流を図りサービスの質の向上に努められている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族にはホーム施設内を見学していただき利用を決められている。なお見学に来られない本人には職員が自宅訪問をして本人、ご家族と話し合い意向を伺う等本人が安心してサービスを受けられるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者一人ひとりが人生の大先輩であるという考えを共有されており、日常生活の中で教えられることが多々あることを伺った。日頃より入居者には尊厳を持って接し共に支えあえる関係づくりに留意されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム利用時に入居者やご家族、担当ケアマネージャーより思い・希望・意向を伺うと共に、日常の暮らしの中で言葉や表情などから気持ちを察し思いを把握されて介護計画に反映されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの担当者が決められており、日常の関わりの中で入居者一人ひとりの言葉や表情より思いを察知し意向を聞き、カンファレンス時に意見交換を図り介護計画作成に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時、更新時、変更申請時等職員が情報を確認し状況に即した介護計画を作成している。なおご家族に説明すると共に全職員に共有がはかられている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに共用型デイサービスが開所し、現在1日3人の利用者が活用されている。なお利用者の中には自費での宿泊希望の申し出もあり、今後に繋げていかれる旨を伺った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携が図られ、週一回の往診を受けられている。また必要時には何時でも適切な医療を受けられる体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル時の看取りの対応指針を定め、ご家族・協力医・看護師を交え話し合いを重ねた上、書面にて承諾書を提出していただいている。全職員で方針を共有して実際に見取りが行われたことを伺った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者によりプライバシーの保護の徹底や個人情報の漏洩防止について指導、徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースにあわせ規則等に当てはめることなく一人ひとりの望まれているペースでゆっくり、ゆったりと過ごされており、入居者主体の個別性を重視した支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問時の昼食を秋晴れの庭先にセッティングされたテーブルで季節を肌で感じ取りながらホームの住人が一同に会し、職員が心をこめて作られたバランスのよい昼食を美味しく頂くことができました。食堂での会食には食事の片付けや食器洗い等も職員と一緒に行われていることを伺った。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回～3回の入浴支援が行われている。また地域に温泉があり、移動可能な入居者に限り温泉入浴の支援も行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの身体状況と、力量を把握し活力を引き出す楽しみごとや役割の支援がされている。(エプロンを付けて食器洗い、食器拭き、洗濯物たたみ等)なお地域の行事(小学校の運動会等)やお花見、サクランボ狩り、温泉入浴等を楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	足腰の弱くなられている方が多く、日常的な外出は難しいものの、庭にテントを張り戸外で季節を肌で感じながら昼食を摂られる等心配りがされている。なお付き添い介助により、身体状況を見ながら近隣への散歩や外出が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者一人ひとりのその日の気分や状態を把握され、職員の見守りの支援が行われており、ホーム玄関には鍵をかけず自由な暮らしの支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の実施が行われている。消防署よりの協力を得て災害対策についての説明を受けられている。ホームが2階建てのため緊急時の避難経路の1つに2階よりの滑り台が設置されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の栄養摂取量や水分量をおおよそ把握しており、毎日チェック表に記録されている。身体状況に合った調理方法や食欲を促し、食が進む工夫に配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問時玄関先にソファが置かれ開放された庭先に沢山の百日草が咲き乱れ、季節感を味わいながらゆったりと過ごされていた。台所より調理の臭いが漂い生活観を感じながら安心した生活が送られている。なお施設内の清潔に配慮され異臭も無く、居心地の良い共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が馴染み愛用してきた品々を持ち込まれ、思い思いの居心地の良い居室づくりにより、安心して過ごせる居場所になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。